

高坂正顯

たかさか しょうけん

哲學者、文學博士。

明治二十二年一月、二十二年愛知

縣生れ、昭和四十四年十一月九日歿（一九〇一完）。大正十二年京都帝

國大學文學部哲学科卒。昭和十五年同大教授、のち關西學院大學教授、

東京學藝大學學長歴任。政治學者高坂正義せいぎはその次男。

譯著書、イタヌエル・カント著「一般歴史考其他」(共譯、大正十五

年十月、二十日岩波書店)「カント著作集」(、グイーンデルマン著「真

理への意志」(譯、昭和二年十一月、二十日岩波書店)「哲學論叢」(、

「歴史的世界—現象學的試論」(昭和十一年十月、二十日岩波書店)、

「ローゼルの論理學の就いて」(昭和十四年六月十五日長野・清水利

一論刊)、「神話—解釋學的考察」(昭和十五年十月十八日岩波書

店)、「學生と西洋」(合著、河合榮治郎編、昭和十六年四月十五日

日本評論社)、「民族の哲學」(昭和十七年四月、二十日岩波書店)、

「哲學年鑑」第一卷、昭和十七年版」(共編、昭和十八年二月、二十日大阪・

靖文社)、「世界史の場と日本」(合著、藤田親昌編、昭和十八年

二月、二十日中央公論社)、「歴史哲學序説」(昭和十八年十一月、一

十日岩波書店)、「哲學年鑑」第二卷、昭和十八年版」(共編、昭和十九年一

月、二十日大阪・靖文社)、「真理の所在」(昭和二十一年一月、二十日

大阪・秋田屋)、「政治・自由及び運命の關する考察」(昭和二十一

年二月、二十日弘文堂書房)、「スピンノーザの哲學」(昭和二十一年十

月十五日京都・玄林書房)「人文新書」(、「歴史的反省」(合著、青

丹會編、昭和二十二年一月十五日京都・永田文昌堂)、「西田幾多郎

先生の追憶」(昭和二十二年四月十日國士書院)、「哲學の愁ゆ」(昭

和二十二年八月、二十日勤草書房)、「現代思想の展望」(合著、昭和

- 二十三年九月十五日白鷺社「現代思想講座」( )、  
「西田幾多郎(その人と學)」(合著、昭和二十二年七月)二十五年大東出版社)、  
「西田寸心先生片影」(合著・高山岩男編、昭和二十四年一月十五日愛知・黎明書房)、  
「カント著『永遠平和の爲に』」(譯、昭和二十四年二月十日岩波書店「岩波文庫」)、  
「實存と虚無と類聚」座談( ) (合著、昭和二十四年二月十五日弘文堂「マテネ文庫」)、  
「キエルクゴオルからサルトルへ」實存哲學研究( ) (昭和二十四年四月十五日弘文堂)、  
「西田哲學と田邊哲學」(昭和二十四年十一月二十日愛知・黎明書房)、  
「歴史の意味とその行方」(昭和二十五年四月二十日福村書店)、  
「共同討議ドストエフスキの哲學」神・人間・革命( ) (合著・弘文堂編集部編、昭和二十五年十一月十五日弘文堂「現代のシンポジウム」)、  
「来るべき時代のたね」希望と反省( ) (昭和二十七年二月十五日弘文堂)、  
「今日の愛國心」ヒューマンガムの立場から( ) (合著、昭和二十七年五月一日ニ格社)、  
「ニーチェ研究」(合著・水上英廣編、昭和二十七年八月二十一日社會思想研究會出版部)、  
「ハインリッヒはニヒリストか」(昭和二十八年六月二十日創文社「フオムシカ選書」)、  
「近代日本とキリスト教」明治篇( ) (合著・久山康編、昭和二十九年四月十日基督教宣道兄弟団)、  
「夏目漱石研究」私たちの読書エー付録・榑野勝久君追悼( ) (合著・土曜会編、昭和二十五年七月十五日兵庫・土曜会)、  
「私見期待される人間像」(昭和四十年六月二十日筑摩書房「デリーニンズ」下・シリーズ)、  
「共同討議ドストエフスキの哲學」(合著・國際日本研究所編、昭和四十二年十二月二十日國際日本研究所、創文社発売)、  
「わたしの二十歳」

(合著・扇谷正造編、昭和四十一年一月十五日旺文社「旺文社新書」)、  
『シンポ』  
『シンポ』思想の變遷』(合著・善木順二編、昭和四十四年一月十五日  
国際日本研究所、創文社発売)、『開かれた大学のたのび』(昭和四  
十四年九月二十一日雨窓社)等。